

地域と大学が連携した地域づくり ～香川大学佛生山らぼプロジェクトを事例として～

香川大学経済学部 教授
古 川 尚 幸

1. はじめに

近年、わが国では、少子高齢化や核家族化により、地域における若者と高齢者の日常的な交流の機会が減り、地域のつながりの希薄化や地域コミュニティの担い手不足など、様々な課題が顕在化している。このような地域のつながりの希薄化を背景として、「世代間交流」への関心が高まっている。例えば、吉田ら(2024)は、教育的価値の視点から、「地域社会における世代間交流の促進は、児童・生徒にとって豊かな教育経験を提供し、地域の持続可能な発展に貢献する」とし、地域コミュニティにおける世代間交流の重要性を指摘している。ここで、「世代間交流」の定義については、例えば、山崎ら(2004)の「子ども、青年、中・高年がお互いに自分たちのもっている能力や技術を出し合って、自分自身の向上と自分の周りの人々の社会に役立つような健全な地域づくりを実践する活動で、一人ひとりが活動の主役となることである」とする定義が広く受け入れられており、以下における「世代間交流」もこの定義に基づいている。

本稿では、世代間交流や地域コミュニティの担い手育成を目的とした地域づくりに取り組んでいる香川大学佛生山らぼプロジェクト(以下、佛生山プロジェクトと略)の活動とその成果について述べる。

2. 仏生山地区について

佛生山プロジェクトの活動フィールドである仏生山地区(高松市仏生山町)は、高松市の中心部から南へ約 10km の中部地域に位置している(図1)。

仏生山地区は、高松藩主松平家の菩提寺である法然寺がある門前町としても知られており、『仏生山歴史案内』によると、「江戸時代、歴代藩主が墓参りをする際に大名行列が練り歩いたという全長 1.3km のお成り街道を中心に、あの時代特有の建築様式の家屋が今も残って」いる町である。また、最近では、若者に人気の仏生山温泉を中心に、新たにレストランやカフェ、雑貨や古着などを扱う店舗が増えるなど、新たなにぎわいを見せており、古さと新しさが混在する魅力的な地区となっている。



図1 仏生山町の位置

2018 年 9 月には高松市立みんなの病院が市内中心部から移転・開院し、また、2022 年 3 月には高松市仏生山交流センター(ふらっと仏生山)が新たに開設された。これらの施設は、ともにことでん仏生山駅に隣接しており、仏生山駅を中心とする仏生山地区は、高松市の南部の拠点としての役割を期待されている。

3. プロジェクトの概要

佛生山プロジェクトは、経済学部古川研究室の学生たちが主体となり、仏生山地区コミュニティ協議会の

協力のもと、仏生山地区のにぎわいづくりや、世代間交流に向けた取り組みの一翼を担うことを目的として、2020年10月に設立した。現在、佛生山プロジェクトに在籍する学生は22名(2024年12月1日現在)であり、それぞれ経済、法学、教育、創造工学部に所属している。佛生山プロジェクトは、正課外活動として位置付けているため、所属する学部や学年は様々であり、参加する学生たちは、このプロジェクト活動を通じて単位を得ることはない。佛生山プロジェクトは、単なるボランティア活動ではなく、自己研鑽として活動したいと希望する学生たち有志の活動となっている。

4. プロジェクトの活動

佛生山プロジェクトでは、仏生山地区の小学生を対象とした「仏生山こどもらぼ」を開催してきた。その目的は、大学生が触媒となって、仏生山地区のこどもたちと大人たち、こどもたちと大学生、大人たちと大学生の交流の場を創出することにある。この目的を達成するため、これまでに「野菜づくり」や「ベンチづくり」など、仏生山地区のなかで実施してきた。現在は、「ちびっこお祭りクリエイターズ」によるお祭りへの出店や、「仏生山まるごと動物園」の開催を中心に取り組んでいる。

4.1 ちびっこお祭りクリエイターズ

仏生山地区では、地域のお祭りとして、毎年8月には「仏生山門前まつり」が、10月には「仏生山大名行列」が、それぞれ開催される。特に、仏生山大名行列は市内外から大勢の見物客が訪れるお祭りである。ちびっこお祭りクリエイターズでは、これらのお祭りにおいて、仏生山こどもらぼに参加するこどもたちが、自分たちで出店する屋台の内容決めから、当日の接客や販売まで、大学生や地域住民のサポートを受けながら行っている。なお、ここで得られたすべての収益は、イベントでこどもたちが着用するお揃いのTシャツの制作や、次回の出店の経費として使用している(写真1)。



写真1 ちびっこお祭りクリエイターズ

4.2 仏生山まるごと動物園

仏生山まるごと動物園は、仏生山地区をひとつの動物園として見立て、仏生山地区のこどもたちや大人たち、大学生と一緒に動物オブジェを制作して、地区内の各所に展示するものである。この地区内の各所に展示した動物オブジェを用いて、謎解きやスタンプラリーなどと組み合わせて実施することで、イベント参加者が地区内を周遊する機会を創出している。また、動物オブジェを制作するプロセスでコミュニケーションが生まれ、佛生山プロジェクトが目的としている、世代間交流のキッカケとなっている(写真2)。



写真2 動物オブジェの制作

5. おわりに

佛生山プロジェクトは、新しいプロジェクトであり、試行錯誤しながら、日々の活動に取り組んでいる。その取り組みの中心となっている「ちびっこお祭りクリエイターズ」ならびに「仏生山まるごと動物園」は、それぞれ取り組み開始から3年目にして、徐々にではあるが地域住民からも知られるようになった。しかし、佛生山プロジェクトが目標として掲げている「世代間交流」については、仏生山地区の子どもたちと大学生の交流は深まっているが、子どもたちと大人たち、大人たちと大学生の交流は十分に達成したとは言い難い。佛生山プロジェクトが、これから如何に地域の触媒の役割を果たし、世代間交流の場を創出できるのか、残された課題に取り組んでいきたい。

最後に、本稿の執筆の機会を与えていただいた公益社団法人瀬戸内海保全協会に深く感謝するとともに、日ごろから各地域で活動に励むプロジェクトの学生たちを称え、時には温かく、時には厳しく学生を見守っていただいている地域のみなさまに感謝の意を表したい。

6. 参考文献

仏生山コミュニティセンター(2016)『仏生山歴史案内』

古川尚幸(2024)「地域と大学が連携した地域づくり～香川大学佛生山らぼプロジェクトを事例として～」『地域活性学会第16回研究大会論文集』296-299 頁

山崎美佐子・角間陽子・草野篤子(2004)「異世代間におけるネットワークの可能性－祖父母と孫の交流関係から－」『信州大学教育学部紀要』112 巻, 99-110 頁

吉田武彦・張明軍・岡部成幸(2024)「地域教育遺産を活かした学習デザインとその意義－三和創造学習の検証を通して－」『福知山公立大学研究紀要』8 巻, 1 号, 155-176 頁